

J-PARCセンターの建物・施設について(1)

【リニアックトンネル内】



建屋中央部は、多くの杭打ちがあるため、トンネル内部の機器は、外観上大きな損傷はなかった。なお、3月17日時点、漏水により10センチ程の水がたまっていたが、現在は、定期的な排水により、排水ピット内の水位を維持

【3GeVシンクロトン内部】



加速器本体は、目視の限り健全(3/29現在)。

【空調室外機】



【タンクローリ寄付き】



あくまで目視の範囲だが、加速器を収納する地下トンネルより、地上の周辺設備に大きな被害が見られる。多数のパイプで堅牢な岩盤にのっている建物本体と、その周辺の地盤及び周辺施設が、剪断方向の大きな乖離を生じた。これにより、配管やケーブルが多数断絶し、地盤からの修復が必要な状況。加速器本体機器の健全性は、正規電力の復帰後に通電試験を実施し、絶縁や真空保持の性能確認をするまで、不明。

J-PARCセンターの建物・施設について(2)

【リニアック2階の電源室】



リニアック建屋の中央部は、クライストロンも含めて無事であったが、側室部分の建屋は、どこも大幅な被害。

【3GeV受電設備】



図にあるような傾きが見られる

【3GeV付近の道路】



道路の波打ち現象。中央部の盛り上がった所の下はビームパイプ。その両サイドが陥没している。

【3GeVコンデンサーバンク】



コンデンサーバンクが波打つ。ケーブルが押しつぶされて大きな荷重。